



静岡県議会議員

勝俣のぼる

Vol.20

令和4年
12月

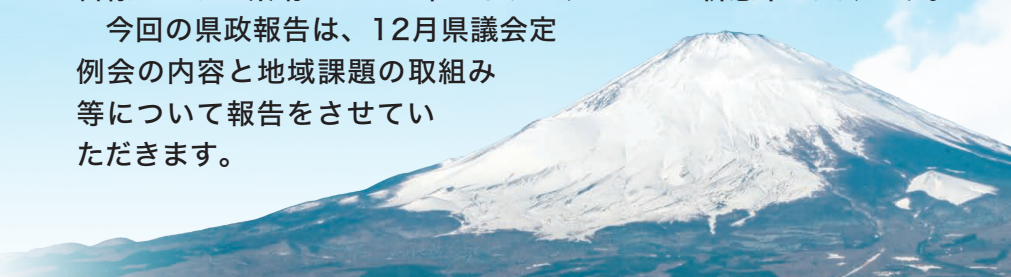
県政レポート

今年の世相を表す漢字が「戦」に決まりました。今年2月、突如始まったロシアによるウクライナ軍事侵略や北朝鮮から繰り返し発射されたミサイルなど、世界情勢の不安定化を招いた年でありました。スポーツ界では、FIFAワールドカップカタール2022で、日本代表チームは強豪国のドイツ・スペインを撃破し見事に1次リーグを突破しました。決勝トーナメントでクロアチアチームにPKの末敗れ、初の8強進出は果たせなかったものの、日本国民は、選手たちの激闘（戦い）に大いなる勇気と感動を頂きました。

そのような中、私の今年の漢字一文字は「結」です。我が家では、

夏に娘が結婚し、秋には息子が結婚と、新たな結びを頂いた年でありました。皆様にとってはどのような年であったでしょうか。来年が、皆様にとって素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げます。

今回の県政報告は、12月県議会定例会の内容と地域課題の取り組み等について報告をさせていただきます。



令和4年12月 県議会定例会 一般質問を 行いました

富士山 世界遺産登録10周年の取組みについて

質問

2023年は、富士山の世界遺産登録から10年という節目の年を迎える。人と自然の共生を象徴する世界の宝として、今後とも価値をアピールする必要があります。アフターコロナにおける観光産業の取組みを伺う。

回答

来年の2月23日に静岡・山梨両県で共催する「富士山の日フェスタ」を皮切りに、6月には東京において富士山世界文化遺産協議会による記念式典、7月には本県の富士山世界遺産センターで蓄積した研究成果を活かし国際シンポジウムを開催するなど、多彩な記念事業を1年通じて展開していきます。

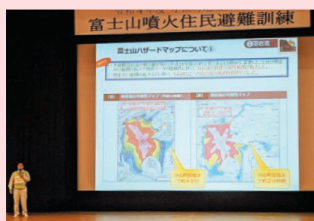
富士山噴火に伴う避難対策について

質問

令和3年3月、富士山噴火に伴うハザードマップ改定を受け、避難に係る具体的な対策について検討が進められている。関係自治体からは避難方法や避難先の確保、降灰時の対応等に課題があるとの意見を伺った。（仮称）富士山火山避難基本計画の策定にあたり、市町との連携について県の所見を伺う。

回答

現在、溶岩流からの避難について、市町ごとに避難対象地区や避難者数、利用可能な避難所などの確認作業を進めています。今後、県内の他市町に対し避難者の受入れ協力を求め、避難先の確保に努めるとともに、移動手段についても検討します。一方、降灰からの避難については、噴火前に避難が必要との認識の下、県の避難計画を策定してまいります。



未就園児に関する取組みについて

質問

小学校就学前の0歳児から5歳児までの未就園児は、全国で約182万人に上るとの推計がされ、私の地元でも、外国籍で入園手続きが分からない方などの話を伺った。未就園児の保護者は、孤独感が高い傾向にあり虐待などのリスクが高まるとの指摘もあり、早い段階から支援していく必要がある。国は、来年4月に創設される「こども家庭庁」で新たな支援事業の検討を進めているが、県として国の支援制度の動向を踏まえ未就園児の実態把握、支援にどのように対応していくか、所見を伺う。

回答

本県における未就園児数は国の推計方法に準じて算出すると概ね4万3,000人程度と見込まれます。毎年度、市町が調査を行い全ての子ども の状況を確認しています。県として、国の支援制度の検討状況を注視し市町に対し、困りごと等の実態把握や各種申請手続のサポートなど併走型の支援を行う「未就園児等全戸訪問・アウトリーチ支援事業」を積極的に活用するよう働きかけます。また、保育所の空き定員等を活用して未就園児を定期的に預かる仕組みづくりなど、国の新たなモデル事業による取組みを参考し市町と検討を進めます。

県産米粉の普及に向けた取組みについて

質問

海外の輸入農産物が社会情勢の変化や凶作等により滞った場合でも、国内需要に応えられるよう国内の農業生産の維持・拡大を図る必要がある。そのような中、国産米粉の活用が注目されている。米どころ新潟県では、輸入小麦の10%以上を国産米粉に置き換える運動を展開し、私の地元でも、米粉で作ったバームクーヘンやパンを道の駅等で販売している。県は、学校給食でパンや麺類等の米粉製品を活用するなど県産米粉の普及を図り、県内の水田農業の新たな活性化につなげるべきと考えますが、県の所見を伺う。

回答

食のライフスタイルが多様化し、主食用米の国内需要が減少する中、水田農業の経営を安定化するためには、米粉の消費を喚起し需要に即応した生産拡大を図ることが重要と考えます。県が策定した「水田収益力強化ビジョン」で、米粉用米を産地交付金の助成対象に位置付け、作付けする農業者の生産拡大を支援しています。今後は、米粉の消費を一層喚起するため、高校生による学校給食コンテストで入賞した米粉レシピや、米粉の地元生産者の情報を各学校の栄養教諭に紹介し学校給食での活用を促進するなど、県産米粉の活用を促進し水田農業の活性化を目指してまいります。



県道「ふじあざみライン」の緊急避難所の整備について

質問

10月13日、ふじあざみラインで大型観光バスが制限速度を超え道路脇の法面に乗り上げ横転し、1人が死亡、27人が重軽傷を負うという痛ましい事故が発生した。今回の事故は、人的なミスの可能性が高いとはいえ、走行上の安全対策を講じる必要がある。事故再発防止に向けた緊急避難所の整備が必要と考えるが注意喚起等を含め県の所見を伺う。

回答

今回のような事故の発生を防ぐために、ドライバーへの注意喚起を強化し、富士山を訪れる方々にフェード現象の事故の危険性を広く周知し、現地では注意喚起する看板を、エンジンブレーキ使用を促す内容に改善します。緊急避難所について、県はこれまで3路線で整備しているが、ふじあざみラインについては、事故原因を踏まえ、警察・地域・交通事業者等の関係者とともに検討してまいります。



児童生徒への支援の充実について

質問

先日、HSCのお子さんに関する相談を受けた。「特性を持った子どもが周囲から十分な理解と支援が得られず学校生活で苦しんでいる。教育関係者に理解を深めていただき、学校で安心して過ごすことができる環境整備に取組んでほしい」と望んでいた。県教育委員会として、こうした様々な特性のある児童生徒に対する教職員の理解向上に向けた取組みと学校での支援体制の構築について所見を伺う。

回答

各学校では、HSCのように、比較的新しく認識されるようになった特性に対し理解はまだ深まっていないと感じています。今後は、これまで以上に個々の特性や、その対応についての理解を深める研修内容を充実させ、専門的な知見を活かしたよりきめ細かな支援を行えるよう努めていきます。また、校内での児童生徒の居場所づくりは、県内の複数の学校でも進められており、好事例や他県の先進事例等の共有を図りながら、HSCなどの特性をもつ児童生徒が安心して利用できる、より良い環境づくりを働きかけていきます。※HSC・・・ハイリー・センシティブ・チャイルド（生まれつき、非常に感受性が強く敏感な気質を持った子）